令和3年度

２学期の教育設計図

１　授業改革

２　なかまづくり

３　生徒会活動

４　GIGAスクールプロジェクト

５　小中連携・一貫教育

６　部活動

山鹿市立鹿北中学校

1　授業改善

（ギガスクールプロジェクト・保小中連携協議会・校内研究・「熊本の学び」）

（１）改善のポイント

①　「教える」から「学ぶ」への転換　→　自立した学習者の育成

□　タブレット等を活用した個別最適な学び

👉　「教える」道具であると共に、「学ぶ」道具として活用

②　「熊本の学び」アクションプロジェクトを中心とした授業改革

□　個に応じた指導・習熟度別学習の拡充

👉　本当に教えなければならない生徒へ徹底的に教える。
自分でできる生徒は自分で学習　→　問題集やタブレット

□　読み・書き・計算の習得の徹底

👉　毎週水・土曜日に宿題として送信される数学・英語の問題

□　読解力向上の取組実践

👉　毎週日曜日の宿題として送信される国語の問題

（２）実践の日常化

①　授業改善プロジェクトとして実践　→　検証授業

□　連続したＰＤＣＡサイクルによる授業力向上　→　実践の日常化

□　日々の授業の振り返り　→　振り返りの視点の明確化

👉　生徒の顔が上がって表情に意欲が感じられる。
分かっている生徒が積極的に手を挙げている。
支持的風土があり、安心して意見が言える　　等々

評価の観点

- ○　連続して授業改善プロジェクトが行われ、間断なくPDCAを繰り返すことができた。
- ○　生徒一人ひとりにとって、「個別最適な学び」を提供することができている。
- ○　生徒一人ひとりの理解が深まるように、習熟度に応じた学びが提供されている。
- ○　生徒一人ひとりの学力・意欲の向上が見られるようになってきている。

2　なかまづくり

評価の観点

○　自分の考えや思いを伝えることができ、友だちの考えや思いを受け止めることができるようになってきた。

（１）班活動の推進・充実

①　班長会・班会議の定期的開催

□　話し合い下敷きの活用・話し合いスキルアップ

□　話し合い　→　実践　→　振り返り（検証）　→　次の実践へ

（２）目標と目的の共有

①　目標の共有

□　学級集団、各部活動など目標共有

👉　同じ目標に向かってチャレンジし、喜んだり、悔しがったりする経験を通して、絆を深めていく。

□　目標はより具体的に

👉　目標に近づいているという実感や達成の姿が共有できる

②　目的の共有

□　「何のために」を明確に
目標を達成する過程で、何を獲得するのか、どう成長するのか

（３）学校教育目標の具現化

①　一人ひとりの個性を認め合える集団

□　違いを認め合える、違うことが当たり前

②　同調圧力の打破

□　他人と違うことに意味や価値がある社会の中で生きているのに、違うことを怖がっている。この状況から抜け出す取組や空気の醸成

評価の観点

○　一人ひとり違うことを、個性として認め合うことができている。
○　自ら課題を見つけ、話し合い、解決方法を見つけ、行動することができている。
○　学年学級目標を意識した生活を送り、目標達成にこだわることができている。

3　生徒会活動

（１）推進の視点

①　目標の明確化・具体的実践の明確化

□　生徒一人ひとり、自分が何をするのかがわかる取り組みを提案

👉　実践　＝　目標に近づき、達成するための行動

②　目標・活動の見える化

□　三役、各委員会の目標や活動を常に意識できる工夫を

👉　掲示の工夫　→　「文字」ではなく「絵」や「マーク」など

👉　「静的」な掲示　→　「動的」な掲示（変化のある掲示）

（２）実践化

評価の観点

○　学級や部活動、委員会など様々な場面で、「Try＆Error」の姿が日常的に見られるようになってきている。

①　生徒会三役

□　行事の目的とスキルアップ及び系統性（連続性）を明確に

👉　運動会　→　清流祭　→　芸術の日

□　目標を達成した姿を明確に

👉　「Try&Error」の達成した姿・状態・Try ロード更新

岡本（おかもと）　碧優（みすぐ）選手（中学３年生）

ネット上には、「メダルに届かなかったけど、挑戦するする気持ちに胸が熱くなった。」「ナイスチャレンジでした。素晴らしかった。」「海外の選手にこんなに讃えられるのは、彼女の挑戦がリスペクトされた証。」「選手のみなさんのチャレンジする姿、励まし合う姿、讃え合う姿がまぶしかった。」などの声が寄せられました。

鹿北中生徒会が目指している「Try&Error」の大きな刺激となる勇気あるチャレンジであったと思います。

評価の観点

○　生徒一人ひとりが、各委員会の目標や活動を意識した生活を送ることができている。

○　各委員会に関係する課題を見つけ、その課題解決のための活動を創造することができた。

②　学級総務委員会

□　総務　＋　班長会　＝　？？？

　　☞　？？？を明確に

③　学習図書委員会

□　読書活動推進

　　☞　思考の深堀り（読解力向上）について共有・実践

□　ビブリオバトル企画・開催

□　家庭学習評価、最下位からの脱却

　　☞　課題把握　→　解決策提案　→　実践　→　検証

④　生活環境委員会

□　鹿北版ＳＤＧｓ推進

　　☞　自分にできること及び実践の見える化　→　検証

□　エコキャップ目標達成

　　☞　目標は？　達成期日は？

⑤　情報委員会

□　給食時の放送工夫改善　→　無言給食だからこその発信

　　☞　生徒会の様々な活動・学級や部活動の取組など

□　校内掲示板の効果的活用

　　☞　点検　→　掲示内容の割振り等の再提案

⑥　健康委員会

□　生活設計力向上の取組

　　☞　ﾒﾃﾞｨｱｺﾝﾄﾛｰﾙ・ﾏｲﾌﾟﾗﾝデーの成果と課題　検証方法

□　具体的実践について、もう１つ考えよう

⑦　体育安全委員会

□　朝のトレーニング活性化

　　☞　目標の明確化と確かな成長を実感するには？

□　中体連陸上・中体連駅伝に向けて

　　☞　全校生徒で取り組む体制づくり

４　くまもとＧＩＧＡスクールプロジェクト

（１）指定中心校としての取組１【授業】

評価の観点

○　指定中心校としての実践や授業を定期的に発信することができた。

○　教職員及び生徒一人ひとりのＩＣＴ活用スキルがアップし、学校情報化「優良校」を取得できた。

①　授業研究会の開催

- 公開授業の実施　　期日や授業教科等
- 教育情報システム等の活用

（２）指定中心校としての取組２【取得】

①　学校情報化「優良校」取得

- 現状把握　→　重点的な取組提案・実践　　夏季休業中に提案
- いつまでに「優良校」を取得するのか

（３）指定中心校としての取組３【連携】

①　担当指導主事との連携（指導やアドバイス）

- 城井　順一　熊本県教育庁教育政策課　教育情報化推進室指導主事

②　ＩＣＴ支援員との連携

- 教職員及び生徒のタブレット活用スキルアップ
- スキルアップの具体的計画提案

（４）指定中心校としての取組４【視察】

①　先進校視察

- 高森や山江などの先進地域への視察　→　校内での復講・共有
- 誰が、いつ、どこに、その後の研修等の具体化

（５）指定中心校としての取組５【学習】

評価の観点

○　タブレットを活用した家庭学習の効果が見られた。（生徒アンケート等）

①　タブレットを活用した家庭学習の取組

- 水（数学）、土（英語）、日（国語）　→　課題をタブレットに送信
- 主に、県学調や全学調の問題を中心に読み・書き・計算及び読解力
- 習熟度に応じた学習　→　個別最適な家庭学習

６　小中連携・一環教育

（１）制度上の「６３制」から運用上の「４３２制」へ

①　期の活動推進

□　計画的な取組　→　小・中ではなく、期の意識を高める

- 特に二期の活動の充実　→　年間を通して計画的な活動
- 一期・二期の修了式等を実施できるような関係作り

②　生徒、保護者、教職員、地域との共有

□　期の特徴や役割の明確化と啓発

- ホームページやゆめ～る、学校運営協議会等

（２）９年間の連続した学び

①　行事等の連携

□　合同運動会、芸術の日、人権子ども集会、生徒会選挙等での連携

- 鹿北委員会と生徒会の連携強化
- 「かほく未来会議」の開催

□　行事の系統性や連続性の重視

- 個別の行事ではなく、学期や年度の中での各行事の位置づけ

②　特別支援教育

□　小中合同のケース会議開催

□　合同研修会の開催

③　９年間の全体計画作成

□　総合的な学習の時間、特別活動（話し合い活動）等

評価の観点

- ○　各期の発達段階や特徴を理解した上での活動を創造し実践できた。
- ○　小中学校が連携・協働して、児童生徒の育成を行うことができた。
- ○　鹿北の伝統文化などを学ぶ機会を網羅した総合的な学習の時間の計画を作成した。
- ○　鹿北の小中連携・一貫教育について、保護者や地域の方々の理解が深まった。

（３）共通課題への取組

①　体力及び耐性低下への対策

□　小中合同トレーニング実施

- 週１～２回程度、放課後２０分間の合同トレーニング計画
- その後、希望者は、中学校部活動に参加（１時間程度）
  （保健加入や保護者の迎え等、条件付きで）

□　部活動体験入部

- 例年１月からの体験入部を１２月から実施（可能かどうか？）

□　野球教室、ハンドボール教室開催

- 小学校４年生以上を対象に中学生が教えたり、交流する。

②　家庭学習習慣

□　毎日の家庭学習

- 学力に応じた質と量の宿題　→　習熟度別
  １年：宿題（習熟度別）＋自学
  ２年：宿題（習熟度別）＋日記＋α（余裕がる生徒が自学）
  ３年：宿題（習熟度別）＋新研究（習熟度別３段階）
- １年の自学　→　効果的な自学となるようにアドバイス
- ２年の自学　→　状況を見て自学の声かけ

評価の観点
○　一人ひとりが、自分に合った効果的な家庭学習を行うことができている。

5　部活動

（１）個人として、集団としての質の向上

①　キャプテンのリーダーシップ

- キャプテン会やリーダー研修の定期的開催
- 「もの言う」キャプテンの育成

②　人としての成長

- 時間厳守、整理整頓、言葉遣い、あいさつ、感謝、気遣い、自己管理
  当事者意識、自主自立・・・、社会で通用する人に
- 部活動の学びや身に着けた力を、部活動以外の生活で活用　→　徹底

評価の観点
○　本当の感動や達成感を味わえる充実した部活動を行うことができた。
○　キャプテンを中心に思いを伝え合える関係を築くことができた。
○　部活動の学びを部活動以外で生かしている。

（２）目標と目的の共有

※　２　なかまづくり　（２）目標と目的の共有と同様

評価の観点
○　目標や目的を共有し、なかまと共に、「Try＆Error を継続できた。